

第2部 市町村の現状

第 1 章 地域別人口

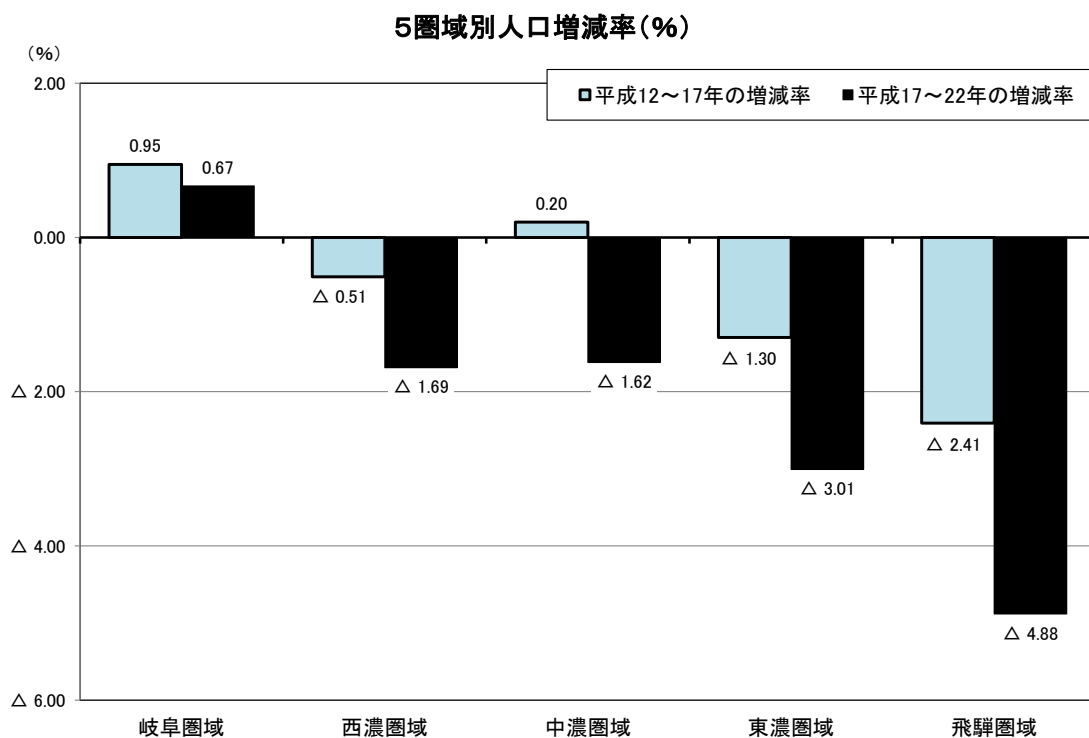
(1) 5圏域別人口

○中濃圏域が減少に転じ、人口増加は岐阜圏域のみとなった。

(岐阜圏域の人口増加率は低下)

平成22年10月1日現在の岐阜県の人口を5圏域別にみると、岐阜圏域が80万7571人(県人口に占める割合38.8%)と最も多く、次いで西濃圏域が38万5021人(同18.5%)となっており、この2圏域で県人口の約6割を占めている。続いて、中濃圏域が38万2570人(同18.4%)、東濃圏域は34万8085人(同16.7%)、人口が最も少ない飛騨圏域は15万7526人(同7.6%)となっている。

平成17年からの5年間の人口増減をみると、人口が増加したのは岐阜圏域のみで、増加数は5353人(0.67%)となっており、増加数の減少が続いている。一方、人口減少となった4圏域のうち、飛騨圏域は昭和55年から、東濃圏域は平成12年から、西濃圏域は平成17年から人口減少となっており、平成17年に比べ減少幅が拡大した。また、中濃圏域は今回人口減少に転じ、6307人の減少となった。



5圏域別人口の増減

	平成12年 (人)	平成17年 (人)	平成22年 (人)	平成12~17年の増減		平成17~22年の増減	
				増減数 (人)	増減率 (%)	増減数 (人)	増減率 (%)
県計	2,109,740	2,107,226	2,080,773	△ 2,514	△ 0.12	△ 26,453	△ 1.26
岐阜圏域	794,691	802,218	807,571	7,527	0.95	5,353	0.67
西濃圏域	393,645	391,637	385,021	△ 2,008	△ 0.51	△ 6,616	△ 1.69
中濃圏域	388,108	388,877	382,570	769	0.20	△ 6,307	△ 1.62
東濃圏域	363,599	358,884	348,085	△ 4,715	△ 1.30	△ 10,799	△ 3.01
飛騨圏域	169,697	165,610	157,526	△ 4,087	△ 2.41	△ 8,084	△ 4.88

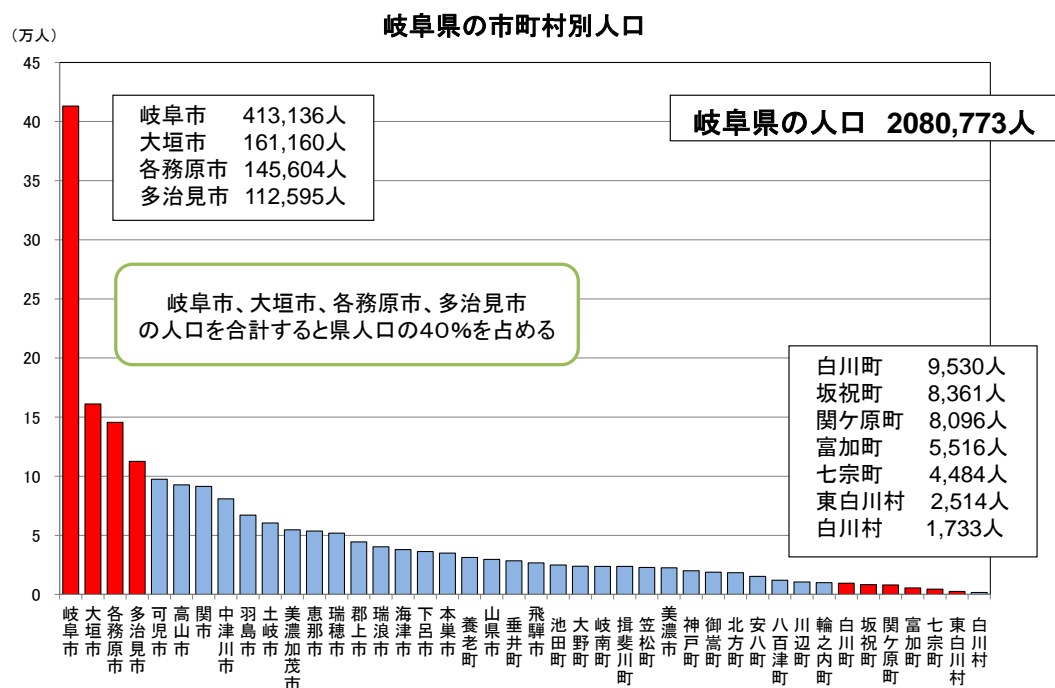
(2) 市町村別人口

○ 10万人以上は4市、5万人以上10万人未満は9市、5万人未満は29市町村。

(29市町村で5万人未満)

平成22年10月1日現在の岐阜県の人口を市町村別にみると、岐阜市が41万3136人と最も多く、県人口の2割を占めている。そのほか、大垣市（16万1160人）、各務原市（14万5604人）、多治見市（11万2595人）の3市が10万人を上回っており、岐阜市を含めたこの4市で県人口の4割を占めている。

5万人未満の人口規模の市町村が半数以上



○平成17年以降の5年間で人口が増加したのは12市町（約1万人の増加）。
一方、人口が減少したのは30市町村（約3万6千人の減少）。

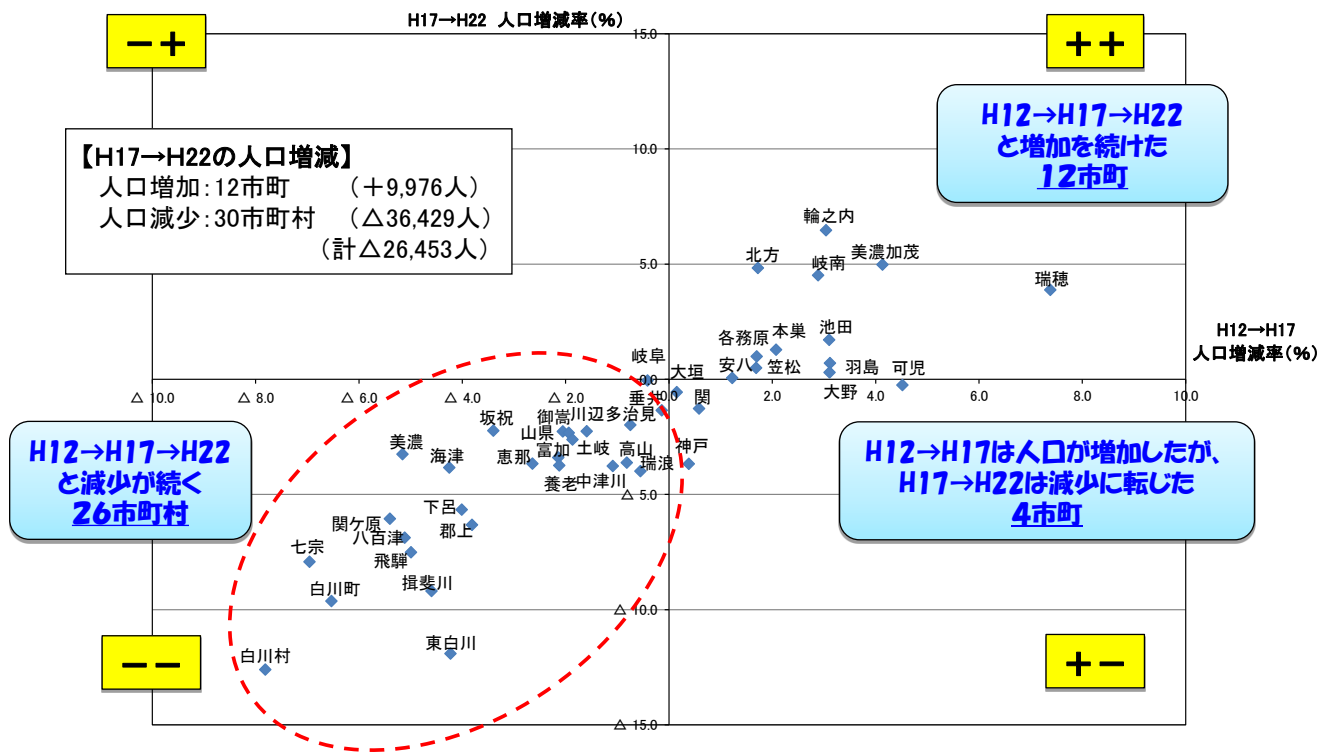
（人口減少の地域が増える一方、県南部では人口増加）

平成17年からの5年間の人口増減をみると、人口が増加したのは美濃加茂市(2,596人、4.98%)、瑞穂市(1,941人、3.88%)、各務原市(1,430人、0.99%)などの12市町となっている。一方、人口が減少したのは高山市(△3,484人、△3.62%)、中津川市(△3,170人、△3.77%)、郡上市(△3,004人、△6.32%)などの30市町村となっている。

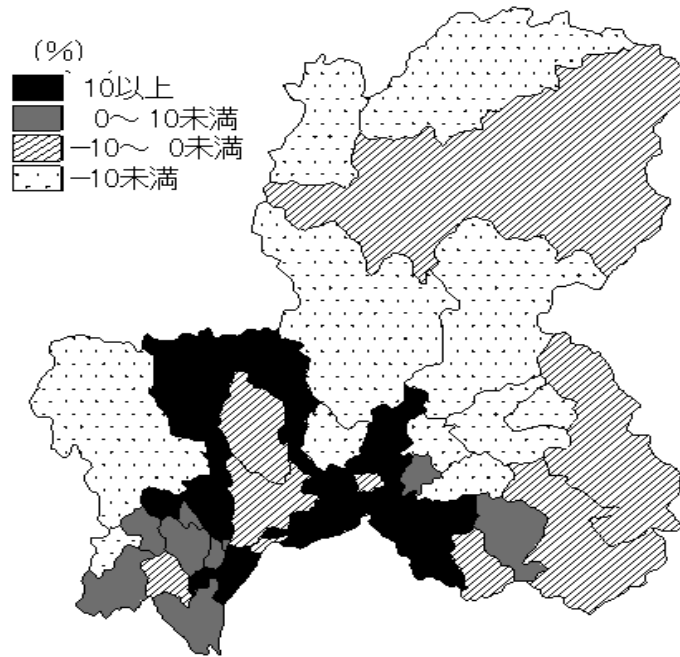
平成12年からの推移をみると、26市町村では一貫して減少となっており、山間部を中心に人口減少が進んでいる。また、神戸町、関市、大垣市、可児市の4市町が今回減少に転じた。一方、12市町では増加が続いており、岐阜市・大垣市の郊外や、愛知県に隣接している地域では人口が増えている。

人口が減少している地域が多くを占める ～H17以降の5年間は、人口が減少したのは30市町村と7割を占める～

県内市町村の人口増減率(H12～H22)



昭和 55 年～平成 22 年の人口増減率



市町村別人口及び人口増減(平成17～22年) 上位・下位10位

人口が多い

順位	市町村	人口 (人)
1	岐阜市	413,136
2	大垣市	161,160
3	各務原市	145,604
4	多治見市	112,595
5	可児市	97,436
6	高山市	92,747
7	関市	91,418
8	中津川市	80,910
9	羽島市	67,197
10	土岐市	60,475

人口増加数が多い

順位	市町村	人口増加数 (人)
1	美濃加茂市	2,596
2	瑞穂市	1,941
3	各務原市	1,430
4	岐南町	1,028
5	北方町	848
6	輪之内町	609
7	羽島市	467
8	本巣市	444
9	池田町	421
10	笠松町	113

人口増加率が高い

順位	市町村	人口増加率 (%)
1	輪之内町	6.47
2	美濃加茂市	4.98
3	北方町	4.83
4	岐南町	4.51
5	瑞穂市	3.88
6	池田町	1.71
7	本巣市	1.28
8	各務原市	0.99
9	羽島市	0.70
10	笠松町	0.50

人口が少ない

順位	市町村	人口 (人)
1	白川村	1,733
2	東白川村	2,514
3	七宗町	4,484
4	富加町	5,516
5	関ヶ原町	8,096
6	坂祝町	8,361
7	白川町	9,530
8	輪之内町	10,028
9	川辺町	10,593
10	八百津町	12,045

人口減少数が多い

順位	市町村	人口減少数 (人)
1	高山市	△ 3,484
2	中津川市	△ 3,170
3	郡上市	△ 3,004
4	揖斐川町	△ 2,408
5	多治見市	△ 2,281
6	下呂市	△ 2,180
7	飛騨市	△ 2,170
8	恵那市	△ 2,043
9	瑞浪市	△ 1,678
10	土岐市	△ 1,627

人口減少率が高い

順位	市町村	人口減少率 (%)
1	白川村	△ 12.61
2	東白川村	△ 11.91
3	白川町	△ 9.63
4	揖斐川町	△ 9.19
5	七宗町	△ 7.93
6	飛騨市	△ 7.51
7	八百津町	△ 6.88
8	郡上市	△ 6.32
9	関ヶ原町	△ 6.06
10	下呂市	△ 5.66

(3) 人口密度

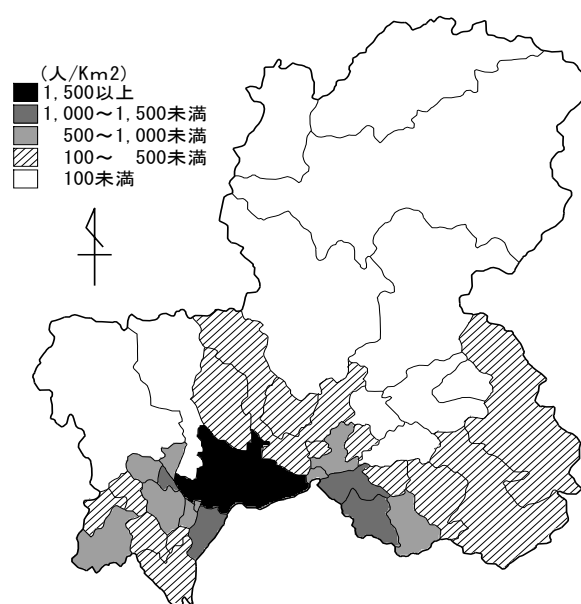
○人口密度は県南部で高い

市町村別に人口密度（1km²あたり）をみると、最も高いのは北方町で3558.0人/km²、次いで岐南町（3013.2人/km²）、笠松町（2201.6人/km²）などとなっており、県の南部で高くなっている。

一方、人口密度が最も低いのは白川村で4.9人/km²、次いで東白川村（28.9人/km²）、揖斐川町（29.6人/km²）などとなっており、山間部で人口密度が低くなっている。

平成17年と比べると、北方町、岐南町、笠松町など人口密度が高い地域では上昇しているが、その他の市町村では低下しており、人口密度の市町村格差は拡大している。

平成22年の人口密度



市町村別人口密度（上位・下位10位）

	順位	市町村名	人口		人口増減率(%)	人口密度(1km ² 当たり)		人口密度の増減
			平成17年	平成22年	平成17~22年	平成17年	平成22年	平成17~22年
人口密度が高い市町村	1	北方町	17,547	18,395	4.8	3394.0	3558.0	164.0
	2	岐南町	22,776	23,804	4.5	2883.0	3013.2	130.1
	3	笠松町	22,696	22,809	0.5	2190.7	2201.6	10.9
	4	岐阜市	413,367	413,136	△ 0.1	2037.4	2036.3	△ 1.1
	5	瑞穂市	50,009	51,950	3.9	1774.0	1842.9	68.9
	6	各務原市	144,174	145,604	1.0	1642.6	1658.9	16.3
	7	羽島市	66,730	67,197	0.7	1244.0	1252.7	8.7
	8	多治見市	114,876	112,595	△ 2.0	1259.1	1234.1	△ 25.0
	9	可児市	97,686	97,436	△ 0.3	1115.1	1112.3	△ 2.9
	10	神戸町	20,830	20,065	△ 3.7	1109.7	1069.0	△ 40.8
人口密度が低い市町村	1	白川村	1,983	1,733	△ 12.6	5.6	4.9	△ 0.7
	2	東白川村	2,854	2,514	△ 11.9	32.8	28.9	△ 3.9
	3	揖斐川町	26,192	23,784	△ 9.2	32.6	29.6	△ 3.0
	4	飛騨市	28,902	26,732	△ 7.5	36.5	33.7	△ 2.7
	5	白川町	10,545	9,530	△ 9.6	44.3	40.1	△ 4.3
	6	高山市	96,231	92,747	△ 3.6	44.2	42.6	△ 1.6
	7	下呂市	38,494	36,314	△ 5.7	45.2	42.7	△ 2.6
	8	郡上市	47,495	44,491	△ 6.3	46.1	43.2	△ 2.9
	9	七宗町	4,870	4,484	△ 7.9	53.8	49.6	△ 4.3
	10	八百津町	12,935	12,045	△ 6.9	100.4	93.5	△ 6.9
岐阜県			2,107,226	2,080,773	△ 1.3	198.4	195.9	△ 2.5

(4) 人口集中地区 (D I D)

○県人口の4割が、県土の2%に満たないD I Dに集中している。

(人口集中地区は23市町、36地区となった)

人口集中地区は、市部・郡部別地域表章が、町村合併や新市の創設等により、必ずしも都市的地域と農村的地域の特質を示さなくなったという事情により、市町村という行政地域の境域とは別に、実質的な都市地域を示すものとして画定され、総務省統計局が、昭和35年以降国勢調査ごとに設定している。

平成22年には、県下の23市町において36地区の人口集中地区が設定されており、地区数は、平成2年の43地区をピークに減少している。

人口集中地区における人口は80万8407人(総人口に占める割合38.9%)、面積は178.73km²(総面積の1.7%)となっており、県人口の約40%が県土の2%に満たない地域に集中している。

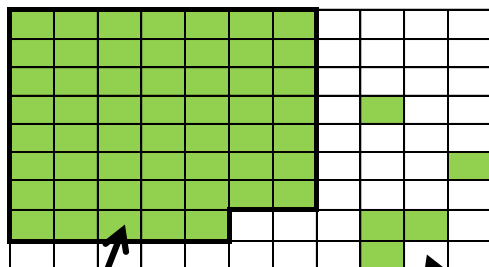
人口集中地区の人口及び人口集中地区以外の地域の人口

	人口(人)	面積(km ²)	人口密度 (1km ² 当たり)	人口総数に 占める割合 (%)	総面積に占 める割合 (%)
岐阜県	2,080,773	10621.2	195.9	100.0	100.0
人口集中地区(DID)	808,407	178.7	4523.1	38.9	1.7
人口集中地区以外の地域	1,272,366	10442.4	121.8	61.1	98.3

<人口集中地区とは>

「人口集中地区」とは、市区町村の境域内において、人口密度の高い基本単位区(原則として人口密度が1平方キロメートル当たり4,000人以上)が隣接し、かつ、その隣接した基本単位区内の人口が5,000人以上となる地域。

基本単位区
 基本単位区のうち、人口密度が4000人/km²以上のもの



隣接した地域の人口が5,000人以上となる地域を、「人口集中地区」という。

人口密度の基準は満たしても、隣接した地域の人口が5,000人未満の場合、人口集中地区とはならない。

○人口集中地区、人口集中地区以外の地域ともに人口減少。

平成 17 年からの 5 年間の人口増減をみると、人口集中地区では、△1 万 3444 人（△1.6%）の減少となっている。人口集中地区の人口は平成 12 年以降減少が続いており、今回も引き続き減少となった。一方、人口集中地区以外の地域の人口は平成 7 年以降増加し続けていたが、平成 17 年に比べ△1 万 3009 人（△1.0%）となり、減少に転じた。

地区別にみると、人口集中地区、人口集中地区以外の地域ともに人口が減少しているのは、美濃市、高山市、中津川市などの 6 市となっている。一方で、人口集中地区の人口は減少しているものの、人口集中地区以外の地域で人口が増加しているのは、飛騨市、笠松町、土岐市など 8 市町となっている。また、瑞穂市、北方町では、人口集中地区、人口集中地区以外の地域ともに人口が増加している。

人口集中地区の人口及び人口集中地区以外の地域の人口

市町村	人口集中地区数		人口集中地区(DID)					人口集中地区以外の地域			
			人口(人)		人口増減率(%)	人口密度(1km ² 当たり)	人口総数に占める割合(%)	人口(人)		人口増減率(%)	人口密度(1km ² 当たり)
	H17	H22	H17	H22	H17→H22	H22	H22	H17	H22	H17→H22	H22
岐阜県	39	36	821,851	808,407	△ 1.6	4523.1	38.9	1,285,375	1,272,366	△ 1.0	121.8
岐阜市	5	5	291,805	291,254	△ 0.2	5294.6	70.5	121,562	121,882	0.3	824.2
大垣市	1	1	92,923	92,961	0.0	4416.2	57.7	69,147	68,199	△ 1.4	367.7
高山市	1	1	41,042	39,025	△ 4.9	4800.1	42.1	55,189	53,722	△ 2.7	24.8
多治見市	4	3	61,988	60,837	△ 1.9	4339.3	54.0	52,888	51,758	△ 2.1	670.3
関市	1	1	26,707	26,544	△ 0.6	4698.1	29.0	65,890	64,874	△ 1.5	138.9
中津川市	1	1	8,231	8,000	△ 2.8	2996.3	9.9	75,849	72,910	△ 3.9	108.2
美濃市	1	1	5,646	5,354	△ 5.2	4087.0	23.7	17,744	17,275	△ 2.6	149.3
瑞浪市	1	1	7,572	7,741	2.2	3990.2	19.2	34,493	32,646	△ 5.4	188.6
羽島市	1	1	20,526	22,757	10.9	4359.6	33.9	46,204	44,440	△ 3.8	917.8
恵那市	1	1	5,893	5,969	1.3	3574.3	11.1	49,868	47,749	△ 4.2	95.0
美濃加茂市	1	1	10,623	10,392	△ 2.2	3820.6	19.0	41,510	44,337	6.8	615.0
土岐市	3	2	31,396	25,863	△ 17.6	3412.0	42.8	30,706	34,612	12.7	319.2
各務原市	4	4	88,815	90,913	2.4	4294.4	62.4	55,359	54,691	△ 1.2	821.2
可児市	4	4	34,134	33,265	△ 2.5	4483.2	34.1	63,552	64,171	1.0	800.3
瑞穂市	1	1	16,245	16,771	3.2	4203.3	32.3	33,764	35,179	4.2	1453.7
飛騨市	2	1	11,109	5,682	△ 48.9	4272.2	21.3	17,793	21,050	18.3	26.6
岐南町	1	1	10,255	11,594	13.1	4278.2	48.7	12,521	12,210	△ 2.5	2352.6
笠松町	1	1	12,993	9,982	△ 23.2	4074.3	43.8	9,703	12,827	32.2	1621.6
垂井町	1	1	13,466	13,399	△ 0.5	3066.1	47.0	15,429	15,106	△ 2.1	286.3
神戸町	1	1	6,687	6,710	0.3	2207.2	33.4	14,143	13,355	△ 5.6	849.0
大野町	1	1	6,142	5,231	△ 14.8	4323.1	21.9	17,646	18,628	5.6	565.0
池田町	1	1	5,488	5,240	△ 4.5	3716.3	21.0	19,071	19,740	3.5	528.1
北方町	1	1	12,165	12,923	6.2	4895.1	70.3	5,382	5,472	1.7	2162.8

第2章 地域別にみた年齢別人口

(1) 市町村別年齢3区分人口

○0～14歳の人口は35市町村で減少、7市町で増加。

○15～64歳の人口は38市町村で減少、4市町で増加。

○一方、65歳以上の人口は40市町村で増加、2町村で減少。

(子どもと現役世代は減少し、高齢者が増加。一方、2市町で高齢者が減少。)

市町村別の年齢3区分別人口を平成17年と比べると、0～14歳人口が増加したのは美濃加茂(377人、4.7%増)、瑞穂市(301人、3.7%増)など7市町で、35市町村で減少となっている。

また、15～64歳人口が増加したのは瑞穂市(542人、1.6%増)、美濃加茂市(517人、1.5%増)など4市町で、38市町村で減少となっている。

一方、65歳以上人口は、40市町村で増加となったが、白川町(82人、2.2%減)、東白川村(13人、1.3%減)の2町村では減少となった。

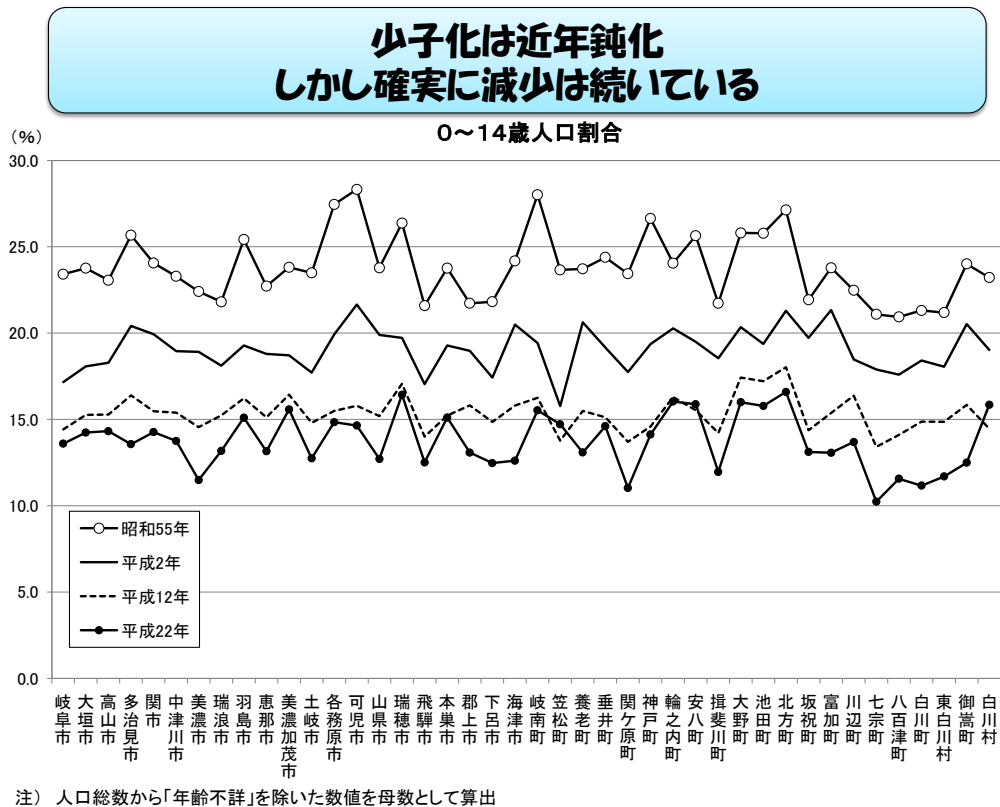
0～14歳人口				15～64歳人口				65歳以上人口			
増加数が多い	順位	市町村名	人口増加数(人)	順位	市町村名	人口増加数(人)	順位	市町村名	人口増加数(人)		
	1	美濃加茂市	377	1	瑞穂市	542	1	岐阜市	12,111		
	2	瑞穂市	301	2	美濃加茂市	517	2	各務原市	6,125		
	3	本巣市	174	3	輪之内町	269	3	可児市	4,276		
	4	笠松町	81	4	北方町	190	4	多治見市	4,190		
	5	輪之内町	74	5			5	大垣市	4,157		
増加率が高い	順位	市町村名	人口増加率(%)	順位	市町村名	人口増加率(%)	順位	市町村名	人口増加率(%)		
	1	輪之内町	4.8	1	輪之内町	4.4	1	岐南町	32.2		
	2	美濃加茂市	4.7	2	北方町	1.6	2	可児市	28.0		
	3	瑞穂市	3.7	3	瑞穂市	1.6	3	北方町	25.6		
	4	本巣市	3.4	4	美濃加茂市	1.5	4	瑞穂市	24.0		
	5	安八町	2.8	5			5	各務原市	24.0		
減少数が多い	順位	市町村名	人口減少数(人)	順位	市町村名	人口減少数(人)	順位	市町村名	人口減少数(人)		
	1	岐阜市	△ 2,441	1	岐阜市	△ 13,564	1	白川町	△ 82		
	2	多治見市	△ 1,836	2	多治見市	△ 5,451	2	東白川村	△ 13		
	3	大垣市	△ 1,077	3	各務原市	△ 4,879	3				
	4	中津川市	△ 1,014	4	高山市	△ 4,709	4				
	5	郡上市	△ 934	5	大垣市	△ 4,607	5				
減少率が高い	順位	市町村名	人口減少率(%)	順位	市町村名	人口減少率(%)	順位	市町村名	人口減少率(%)		
	1	東白川村	△ 25.4	1	白川村	△ 19.5	1	白川町	△ 2.2		
	2	白川町	△ 22.3	2	東白川村	△ 15.8	2	東白川村	△ 1.3		
	3	七宗町	△ 18.3	3	揖斐川町	△ 13.7	3				
	4	関ヶ原町	△ 17.3	4	飛騨市	△ 11.7	4				
	5	白川村	△ 15.0	5	白川町	△ 11.4	5				

〇〇～14歳人口割合は、ほとんどの市町村で15%を下回っている。

(0～14歳人口割合は、この30年間で急速に低下。)

0～14歳人口の割合は、北方町が16.6%と最も多く、次いで瑞穂市が16.4%、輪之内町が16.0%などとなっている。一方、七宗町は10.2%と最も低く、次いで関ヶ原町が11.0%、白川町が11.2%などとなっている。

昭和55年からの推移をみると、0～14歳人口の割合は、昭和55年には全ての市町村で20%以上となっていたが、平成12年までの20年間で大きく低下し、近年は低下傾向が鈍化しているものの、15%を下回る市町村が多くなっている。



0～14歳人口の割合

低い順			高い順		
		%			%
1	七宗町	10.2	1	北方町	16.6
2	関ヶ原町	11.0	2	瑞穂市	16.4
3	白川町	11.2	3	輪之内町	16.0
4	美濃市	11.5	4	大野町	16.0
5	八百津町	11.6	5	安八町	15.9
6	東白川村	11.7	6	白川村	15.9
7	揖斐川町	12.0	7	池田町	15.8
8	下呂市	12.5	8	美濃加茂市	15.6
9	御嵩町	12.5	9	岐南町	15.5
10	飛騨市	12.5	10	本巣市	15.1

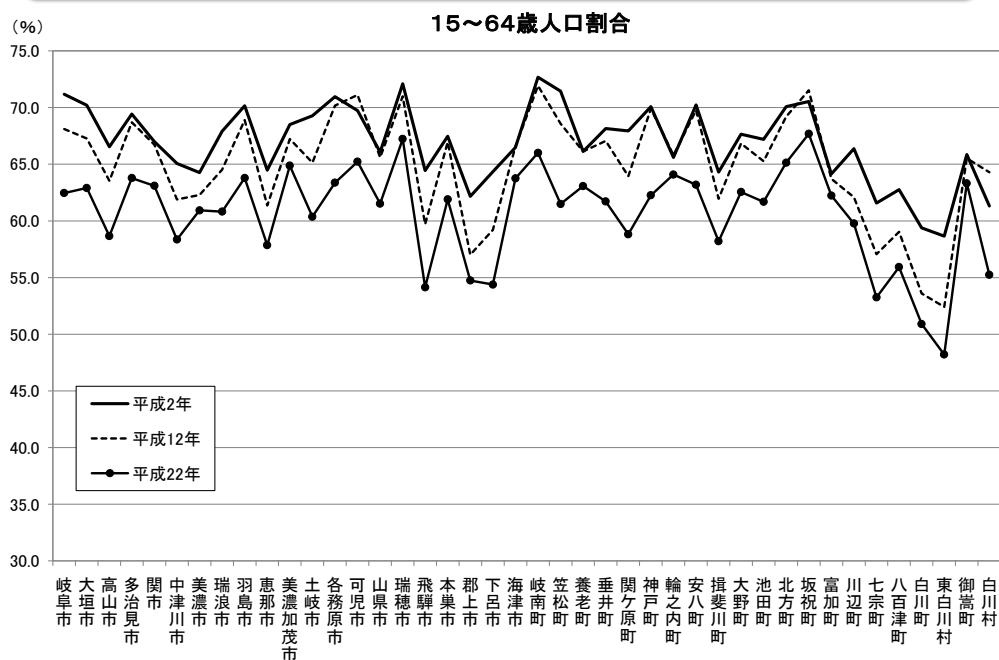
○ 15～64歳人口の割合は、全ての市町村で低下。

(現役世代の割合は全ての市町村で低下)

15～64歳人口の割合は、坂祝町が67.7%と最も高く、次いで瑞穂市が67.2%、岐南町が66.0%などとなっている。一方、東白川村は48.2%と最も低く、次いで白川町が50.9%、七宗町が53.3%などとなっている。

平成2年からの推移をみると、15～64歳人口の割合は、全ての市町村で低下となっている。

生産年齢人口割合は全市町村で低下



注) 人口総数から「年齢不詳」を除いた数値を母数として算出

15～64歳以上人口の割合

低い順			高い順		
		%			%
1	東白川村	48.2	1	坂祝町	67.7
2	白川町	50.9	2	瑞穂市	67.2
3	七宗町	53.3	3	岐南町	66.0
4	飛騨市	54.1	4	可児市	65.2
5	下呂市	54.4	5	北方町	65.1
6	郡上市	54.7	6	美濃加茂市	64.9
7	白川村	55.2	7	輪之内町	64.1
8	八百津町	55.9	8	羽島市	63.8
9	恵那市	57.9	9	多治見市	63.8
10	揖斐川町	58.2	10	海津市	63.7

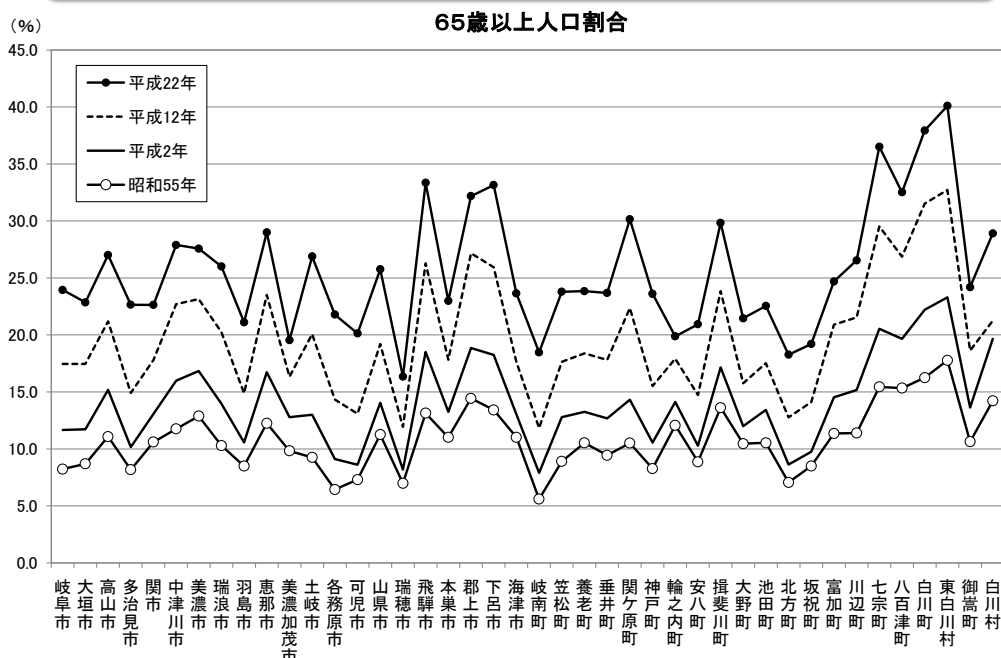
○すべての市町村で65歳以上人口の割合が上昇。

(山間部だけでなく都市部でも高齢化は進行している)

65歳以上人口の割合は、東白川村が40.1%と最も高く、次いで白川町が37.9%、七宗町が36.5%などとなっている。一方、瑞穂市は16.3%と最も低く、次いで北方町が18.3%、岐南町が18.5%などとなっている。

高齢化率が30%を超えているのは8市町村で、山間部を中心に一段と高齢化が進んでいる。また、最も高齢化率が低い瑞穂市でも、昭和55年(7.0%)と比べると、高齢者の割合は約2倍に上昇しており、山間部に限らず、どの地域でも高齢化は進行している。

**高齢化率は全市町村で上昇
山間部だけでなく都市部でも高齢化は進んでいる**



注) 人口総数から「年齢不詳」を除いた数値を母数として算出

65歳以上人口の割合

低い順		%	高い順		%
1	瑞穂市	16.3	1	東白川村	40.1
2	北方町	18.3	2	白川町	37.9
3	岐南町	18.5	3	七宗町	36.5
4	坂祝町	19.2	4	飛騨市	33.3
5	美濃加茂市	19.5	5	下呂市	33.1
6	輪之内町	19.9	6	八百津町	32.5
7	可児市	20.1	7	郡上市	32.2
8	安八町	20.9	8	関ヶ原町	30.1
9	羽島市	21.1	9	揖斐川町	29.8
10	大野町	21.5	10	恵那市	29.0

○人口減少と高齢化

(人口が減少した地域では、高齢化が顕著)

昭和55年から平成22年の人口の変化を市町村別にみると、人口が増加した地域は県の南部に集中しており、65歳以上人口の割合は比較的低くなっている。一方、人口が減少した地域では、65歳以上人口の割合が高く、高齢化が顕著となっている。

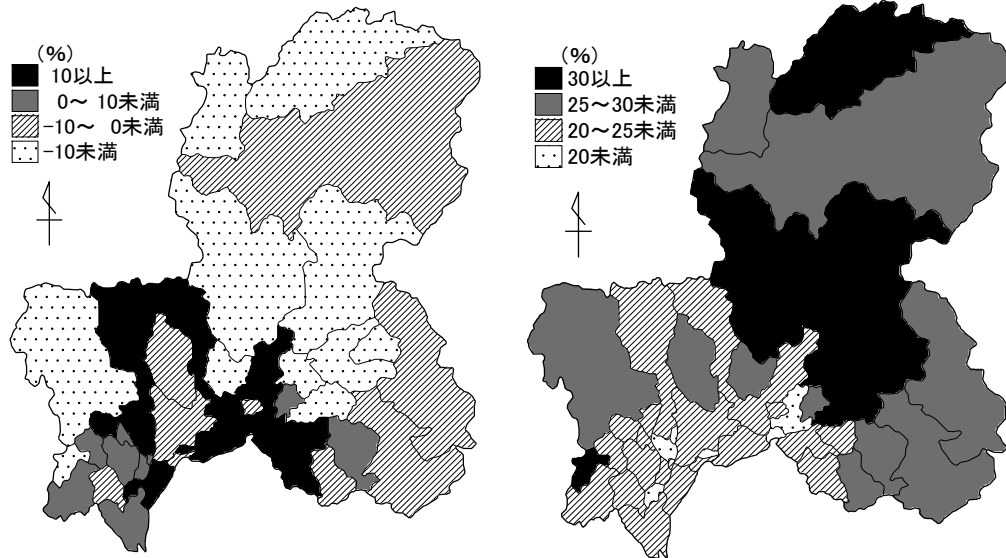
30年間の地域別人口の変化

**30年前と比較すると、人口が増加した地域は南部に集中。
人口が減少した地域では、高齢化が顕著**

平成22年10月1日現在の市町村

昭和55年～平成22年の人口増減率

平成22年の高齢(65歳以上)人口割合

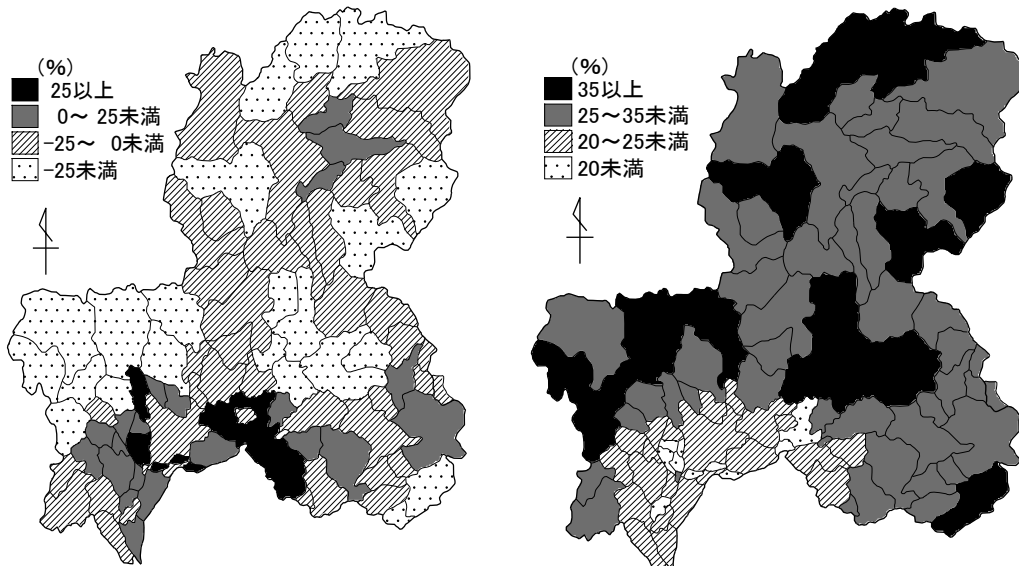


参考:合併前の市町村で比較したもの

平成12年10月1日現在の市町村(合併前の山口村含む100市町村)で色分けした場合

昭和55年～平成22年の人口増減率

平成22年の高齢(65歳以上)人口割合



(2) 市町村別の人口指数

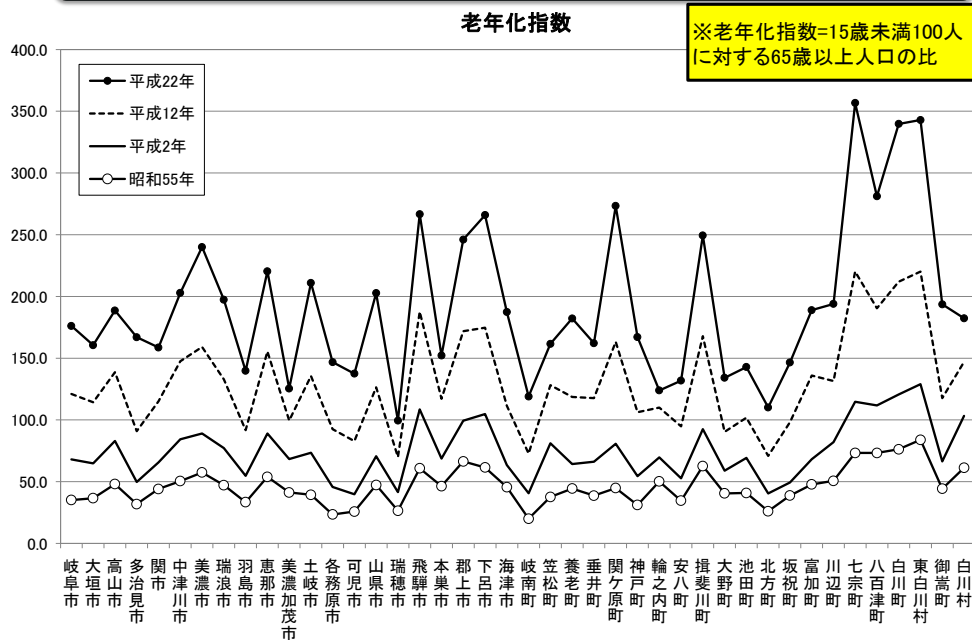
○老年化指数（0～14歳人口100人に対する65歳以上人口）は、全市町村で上昇

（41市町村で、高齢者1人に対する子どもの数が1人に満たない）

老年化指数（0～14歳人口100人に対する65歳以上人口の比）をみると、0～14歳の子ども100人に対する65歳以上の高齢者の数は、七宗町が356.6と最も高く、次いで東白川村が342.9、白川町が339.8などとなっている。一方、瑞穂市が99.5と最も低く、次いで北方町が110.1、岐南町が119.0などとなっている。

老年化指数の推移をみると、昭和55年から平成22年の間に、全ての市町村で上昇となっている。昭和55年には、全ての市町村で100を下回っていた（0～14歳人口>65歳以上人口）が、平成22年現在、0～14歳人口の方が65歳以上人口より多いのは、瑞穂市のみとなっている。

子ども100人に対する高齢者の数は、全市町村で増加



老年化指数

高い順			低い順		
1	七宗町	356.6	1	瑞穂市	99.5
2	東白川村	342.9	2	北方町	110.1
3	白川町	339.8	3	岐南町	119.0
4	八百津町	281.1	4	輪之内町	123.9
5	関ヶ原町	273.3	5	美濃加茂市	125.4
6	飛騨市	266.6	6	安八町	131.8
7	下呂市	265.9	7	大野町	134.1
8	揖斐川町	249.4	8	可児市	137.5
9	郡上市	246.0	9	羽島市	139.8
10	美濃市	240.0	10	池田町	142.8

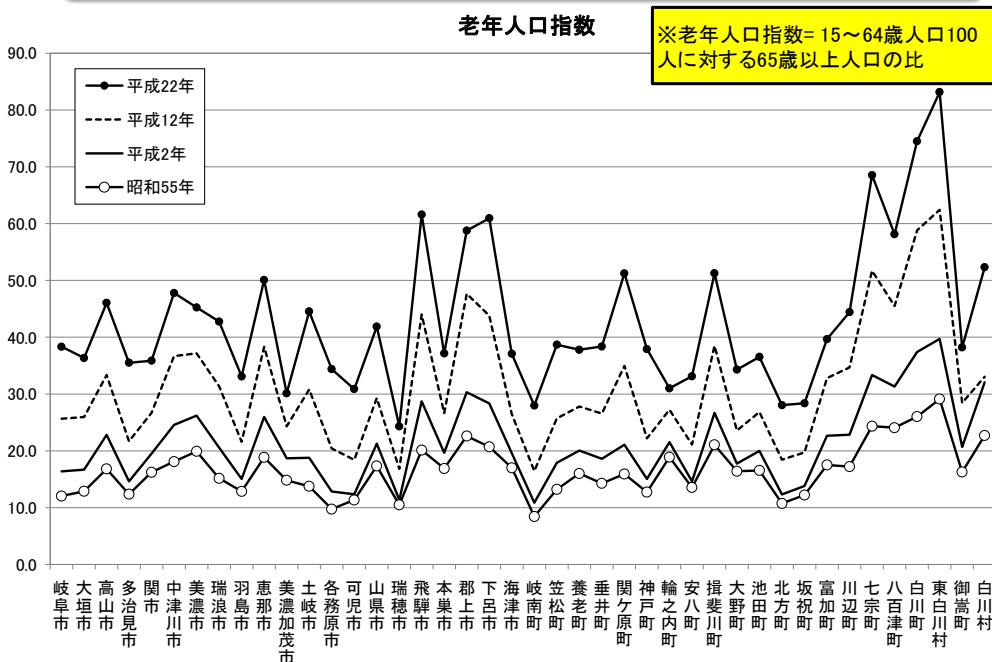
○老年人口指数（15～64歳人口100人に対する65歳以上人口）は、
全市町村で上昇。

（10市町村で、高齢者1人を支える現役世代の数が2人に満たない）

老年人口指数（15～64歳人口100人に対する65歳以上人口の比）をみると、15～64歳の現役世代100人に対する65歳以上の高齢者の数は、東白川村が83.2と最も高く、次いで白川町が74.5、七宗町が68.6などとなっている。一方、瑞穂市は24.3と最も低く、次いで岐南町が27.98、北方町が28.04などとなっている。

老年人口指数の推移をみると、昭和55年から平成22年の間に、全ての市町村で上昇となっており、現在は全ての市町村で20.0を上回っている。

現役世代100人に対する高齢者の数は、全市町村で増加



老年従属人口指数

高い順			低い順		
1	東白川村	83.2	1	瑞穂市	24.3
2	白川町	74.5	2	岐南町	28.0
3	七宗町	68.6	3	北方町	28.0
4	飛騨市	61.6	4	坂祝町	28.4
5	下呂市	61.0	5	美濃加茂市	30.1
6	郡上市	58.8	6	可児市	30.9
7	八百津町	58.1	7	輪之内町	31.0
8	白川村	52.3	8	羽島市	33.1
9	揖斐川町	51.3	9	安八町	33.1
10	関ヶ原町	51.3	10	大野町	34.3

第3章 地域別世帯の状況

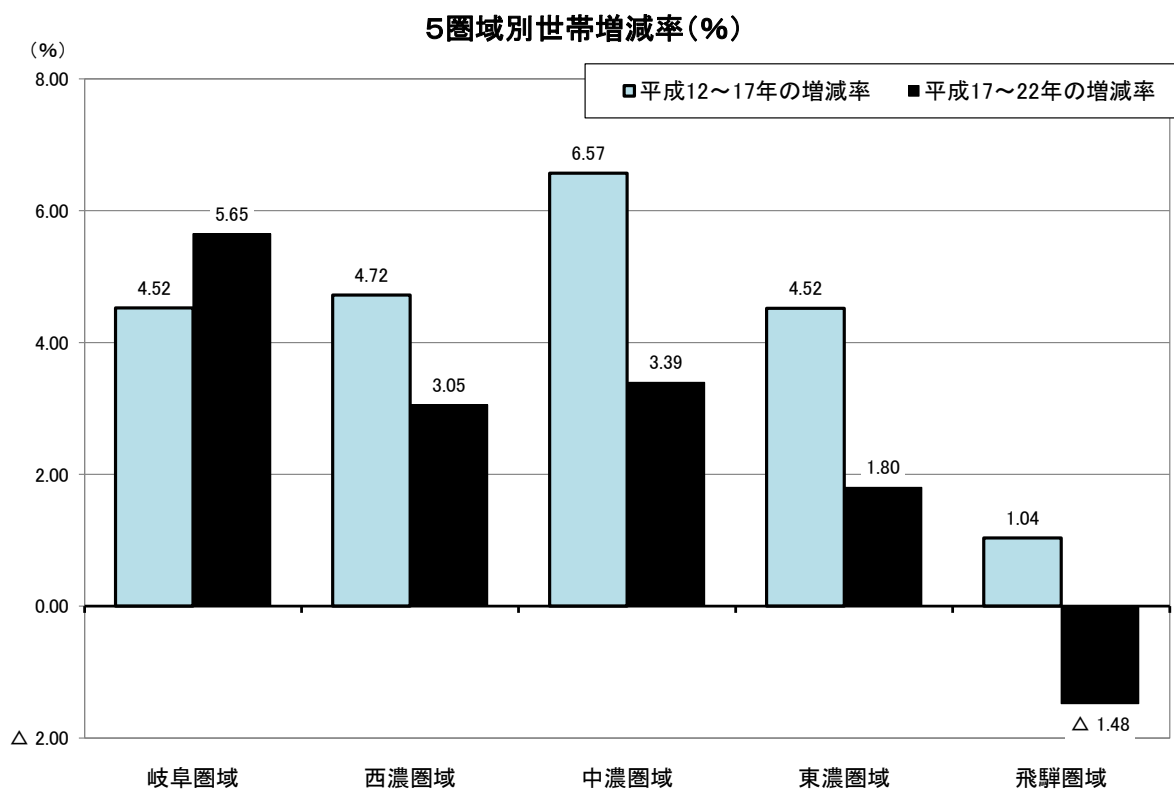
(1) 5圏域別世帯数

○一般世帯数は4圏域で増加。飛騨圏域は減少に転じた。

(飛騨圏域は人口、一般世帯数ともに減少)

平成22年10月1日現在の岐阜県の一般世帯数を5圏域別にみると、岐阜圏域が29万9917世帯(県の一般世帯に占める割合40.8%)と最も多く、次いで中濃圏域が13万2979世帯(同18.1%)となっている。続いて、西濃圏域が12万8577世帯(同17.5%)、東濃圏域が12万382世帯(同16.4%)となっており、世帯が最も少ない飛騨圏域は5万3847人(同7.3%)となっている。

平成17年からの5年間の世帯増減をみると、岐阜圏域で1万6039世帯(5.65%)の増加、西濃圏域で3811世帯(3.05%)の増加、中濃圏域で4365世帯(3.39%)の増加、東濃圏域で2129世帯(1.80%)の増加となっている。一方で、飛騨圏域は△808世帯(△1.48%)の減少となった。



5圏域別世帯の増減

	平成12年 (世帯)	平成17年 (世帯)	平成22年 (世帯)	平成12～17年の増減		平成17～22年の増減	
				増減数 (人)	増減率 (%)	増減数 (人)	増減率 (%)
県計	678,658	710,166	735,702	31,508	4.64	25,536	3.60
岐阜圏域	271,593	283,878	299,917	12,285	4.52	16,039	5.65
西濃圏域	119,142	124,766	128,577	5,624	4.72	3,811	3.05
中濃圏域	120,688	128,614	132,979	7,926	6.57	4,365	3.39
東濃圏域	113,140	118,253	120,382	5,113	4.52	2,129	1.80
飛騨圏域	54,095	54,655	53,847	560	1.04	△ 808	△ 1.48

(2) 市町村別にみた5年間の世帯増減

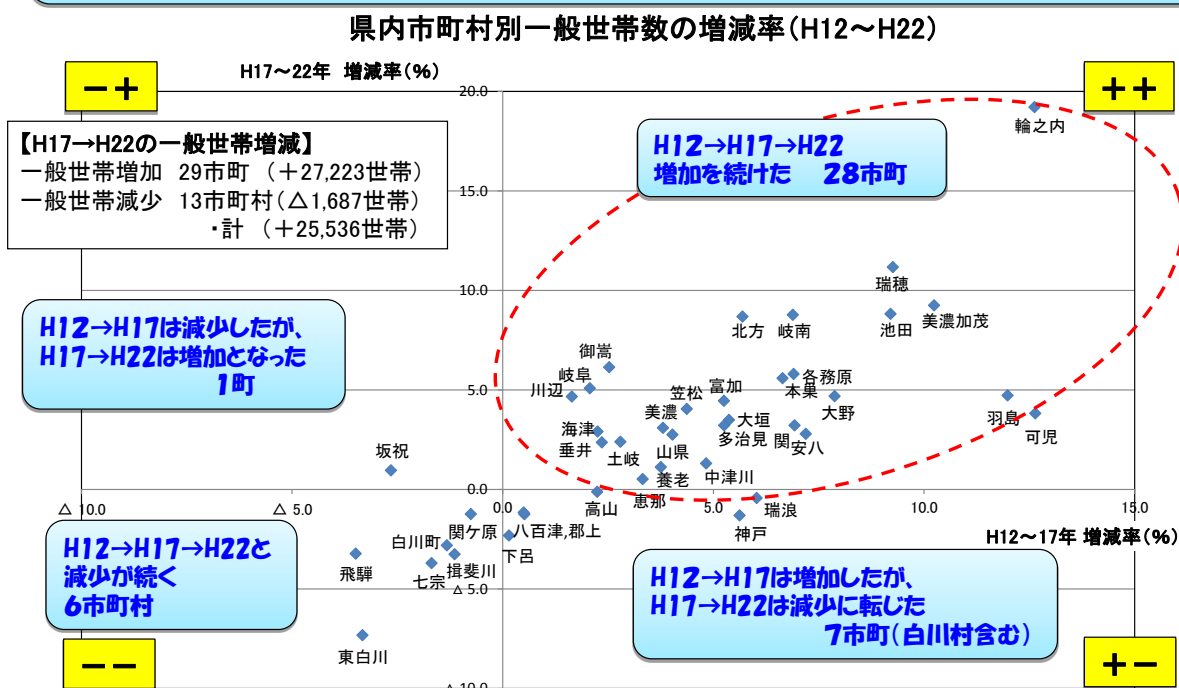
○平成17年以降の5年間で世帯が増加したのは29市町（約3万世帯の増加）。
一方、世帯が減少したのは13市町村（約2千世帯の減少）。

（人口が減少する一方、世帯は増加している市町村が多い）

平成22年10月1日現在の一般世帯数を市町村別にみると、前回（平成17年）から増加したのは29市町で、前回（35市町）より減少した。一方、平成17年と比べ減少したのは13市町村で、前回（7市町村）より増加した。

平成12年から平成22年の増減をみると、平成12年から平成22年まで増加を続けているのは28市町となっており、人口が減少する一方で世帯は増加している地域が多い。また、平成22年に減少に転じたのは7市町、平成12年から減少が続いているのは6市町村となっており、人口減少の進行が早い地域では世帯数も減少に転じている。

**人口が減る一方、県と同じく世帯が増加する地域が多い
人口減少が進んでいる地域では世帯数も減少に転じている**



※白川村はH12→H17は増加、H17→H22は減少したが、東海北陸道工事関係者の移動が大きく影響しており、数値の変動が大きいため、便宜上、グラフからは除いている。

一般世帯数の増加が大きい市町村

順位	増加数		増加率	
	市町村名	世帯	市町村名	%
1	岐阜市	7,800	輪之内町	19.2
2	各務原市	2,843	瑞穂市	11.2
3	大垣市	1,971	美濃加茂市	9.2
4	瑞穂市	1,945	池田町	8.8
5	美濃加茂市	1,672	岐南町	8.8

一般世帯数の減少が大きい市町村

順位	減少数		減少率	
	市町村名	世帯	市町村名	%
1	下呂市	△296	白川村	△23.0
2	飛騨市	△292	東白川村	△7.3
3	揖斐川町	△257	七宗町	△3.7
4	郡上市	△184	揖斐川町	△3.3
5	白川村	△179	飛騨市	△3.2

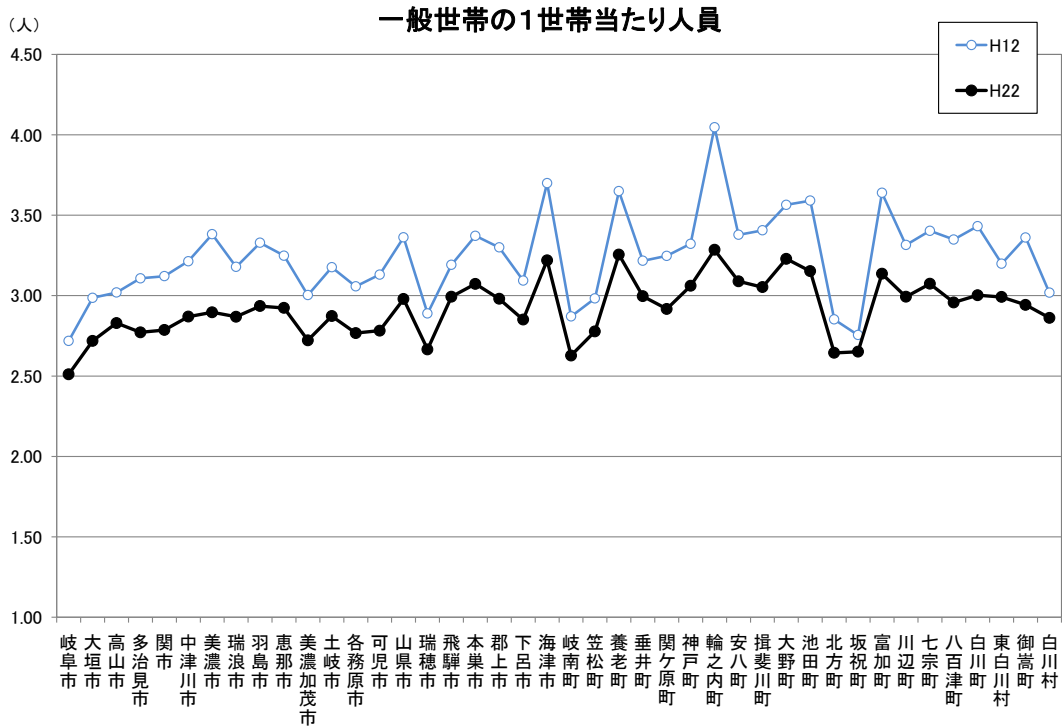
○ 1世帯当たり人員は、どの地域でも減少傾向。

(1世帯当たり人員が3人に満たない地域が増加)

一般世帯の1世帯当たり人員が3人を上回る地域は12町で、平成17年(26市町村)に比べ、14市町村減少しており、1世帯当たり人員が3人に満たない小家族の地域が多くなっている。

1世帯当たり人員が最も多いのは輪之内町(3.28人)で、一方、最も少ないのは岐阜市(2.51人)となっている。平成12年と比べると、1世帯当たり人員は全ての市町村で減少しており、どの地域でも小家族化が進行している。

**1世帯当たり人員は、どの地域でも減少傾向
～小家族化はどの地域でも進行している～**



1世帯当たり人員

順位	多い順		少ない順	
	市町村名	世帯	市町村名	世帯
1	輪之内町	3.28	岐阜市	2.51
2	養老町	3.26	岐南町	2.63
3	大野町	3.23	北方町	2.64
4	海津市	3.22	坂祝町	2.65
5	池田町	3.15	瑞穂市	2.67

(3) 家族類型別の世帯数

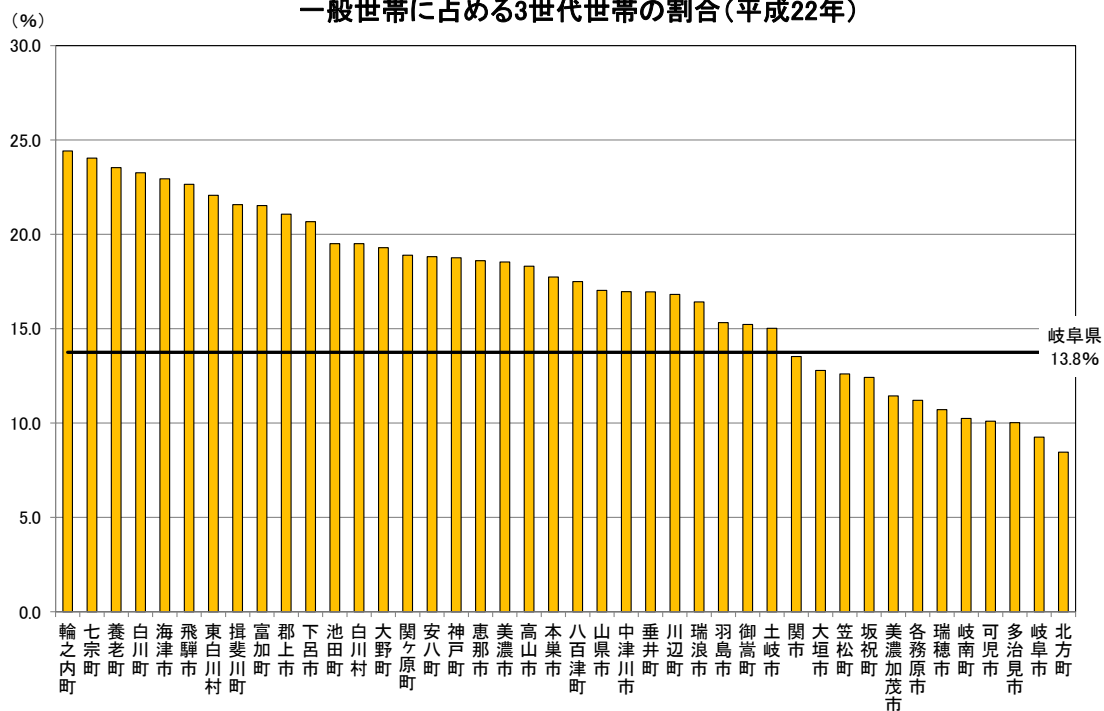
○ 3世代世帯は全ての市町村で減少。

(3世代世帯はほとんどの地域で2割に満たない)

一般世帯数を家族類型別にみると、3世代世帯（10万1169世帯）は全ての市町村で減少（1万3663世帯減）となっている。一般世帯に占める3世代世帯の割合は、輪之内町が24.4%と最も高く、次いで七宗町（24.0%）、養老町（23.6%）などとなっている。一方、北方町が8.5%と最も低く、次いで岐阜市（9.3%）、多治見市（10.0%）などとなっており、岐阜市周辺や愛知県に近い県の南部では、3世代世帯が少なくなっている。

3世代世帯は岐阜・大垣等南部で少ない傾向

一般世帯に占める3世代世帯の割合（平成22年）



3世代世帯割合

順位	割合が高い		割合が低い	
	市町村名	%	市町村名	%
1	輪之内町	24.4	北方町	8.5
2	七宗町	24.0	岐阜市	9.3
3	養老町	23.6	多治見市	10.0
4	白川町	23.3	可児市	10.1
5	海津市	22.9	岐南町	10.2

3世代世帯の減少が大きい市町村

順位	減少数		減少率	
	市町村名	世帯	市町村名	%
1	岐阜市	△2,272	白川町	△21.5
2	大垣市	△854	八百津町	△19.5
3	関市	△756	東白川村	△17.1
4	中津川市	△715	郡上市	△17.0
5	高山市	△701	富加町	△15.4

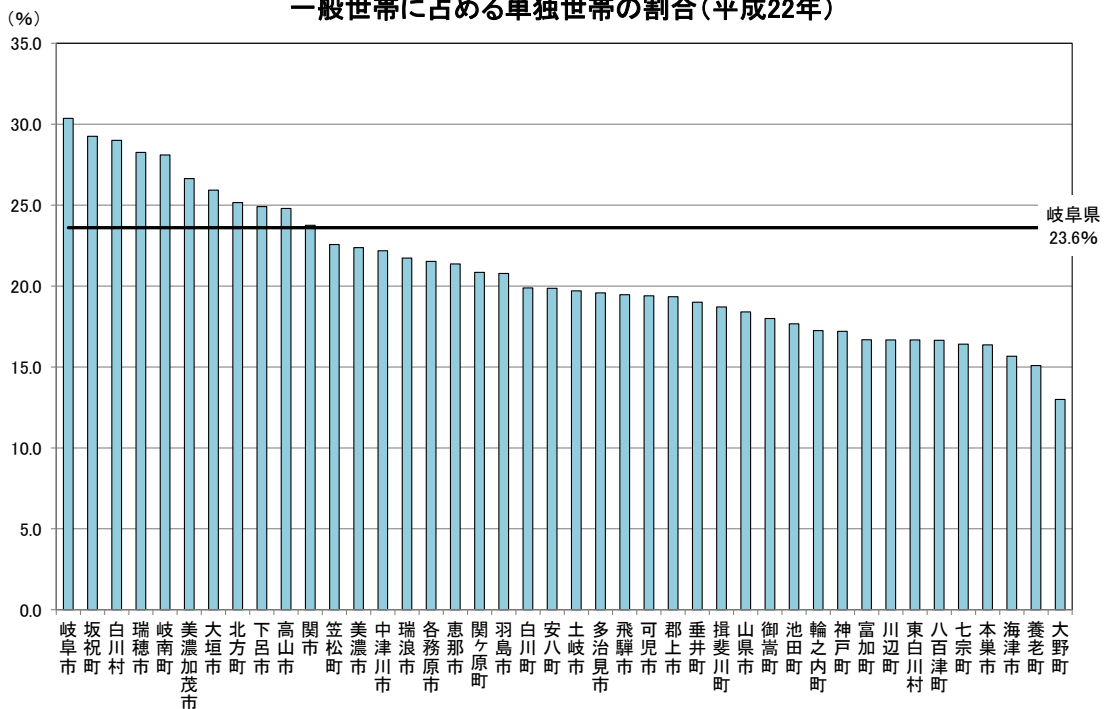
○単独世帯（一人暮らし）は39市町で増加、3町村で減少。

（単独世帯は全市町村で1割を超える）

単独世帯（17万3719世帯）は39市町で増加（2万1360世帯増）となっており、3町村で減少（187世帯減）となった。一般世帯に占める単独世帯の割合は岐阜市が30.4%と最も高く、次いで坂祝町（29.3%）、白川村（29.0%）などとなっている。一方、大野町が13.0%と最も低く、次いで養老町（15.2%）、海津市（15.7%）などとなっている。

単独世帯は岐阜・大垣等の南部で多い傾向

一般世帯に占める単独世帯の割合（平成22年）



単独世帯割合

順位	割合が高い		割合が低い	
	市町村名	%	市町村名	%
1	岐阜市	30.4	大野町	13.0
2	坂祝町	29.3	養老町	15.2
3	白川村	29.0	海津市	15.7
4	瑞穂市	28.3	本巣市	16.4
5	岐南町	28.1	七宗町	16.4

単独世帯の増加が大きい市町村

順位	増加数		増加率	
	市町村名	世帯	市町村名	%
1	岐阜市	6,869	輪之内町	80.2
2	各務原市	1,939	御嵩町	41.0
3	大垣市	1,849	池田町	35.2
4	多治見市	1,177	川辺町	28.1
5	瑞穂市	1,019	瑞穂市	22.9

単独世帯が減少した市町村

順位	減少数		減少率	
	市町村名	世帯	市町村名	%
1	白川村	△150	白川村	△46.3
2	坂祝町	△22	東白川村	△9.7
3	東白川村	△15	坂祝町	△2.4

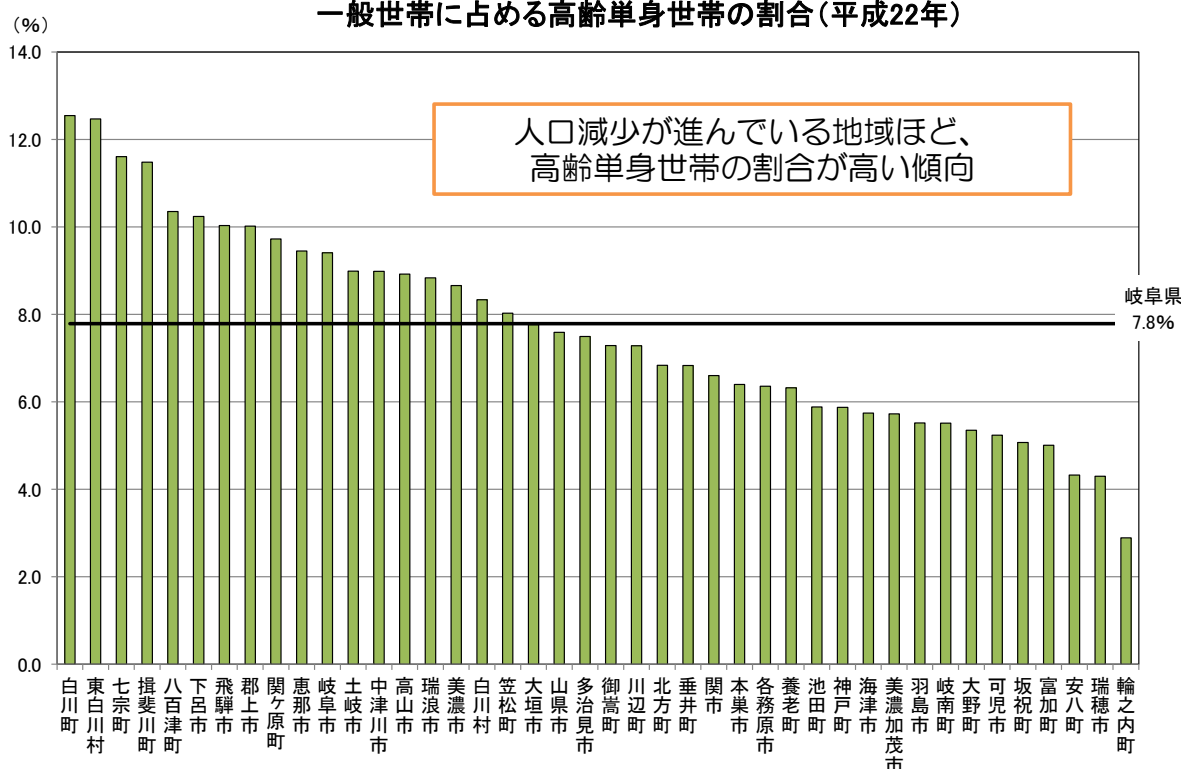
○高齢単身世帯（65歳以上の一人暮らし）は全ての市町村で増加。

（地域によっては高齢単身世帯が1割を超える）

高齢単身世帯（5万7299世帯）は全市町村で増加（1万2568世帯増）となっている。一般世帯に占める高齢単身世帯の割合は白川町が12.5%と最も高く、次いで東白川村（12.5%）、七宗町（11.6%）などとなっている。一方、輪之内町が2.9%と最も低く、次いで瑞穂市（4.3%）、安八町（4.3%）などとなっている。

**高齢単身世帯の割合が1割を超える市町村もある
（10軒のうち1軒は高齢の1人暮らし）。**

一般世帯に占める高齢単身世帯の割合（平成22年）



高齢単身世帯割合

順位	割合が高い		割合が低い	
	市町村名	%	市町村名	%
1	白川町	12.5	輪之内町	2.9
2	東白川村	12.5	瑞穂市	4.3
3	七宗町	11.6	安八町	4.3
4	揖斐川町	11.5	富加町	5.0
5	八百津町	10.4	坂祝町	5.1

高齢単身世帯の増加が大きい市町村

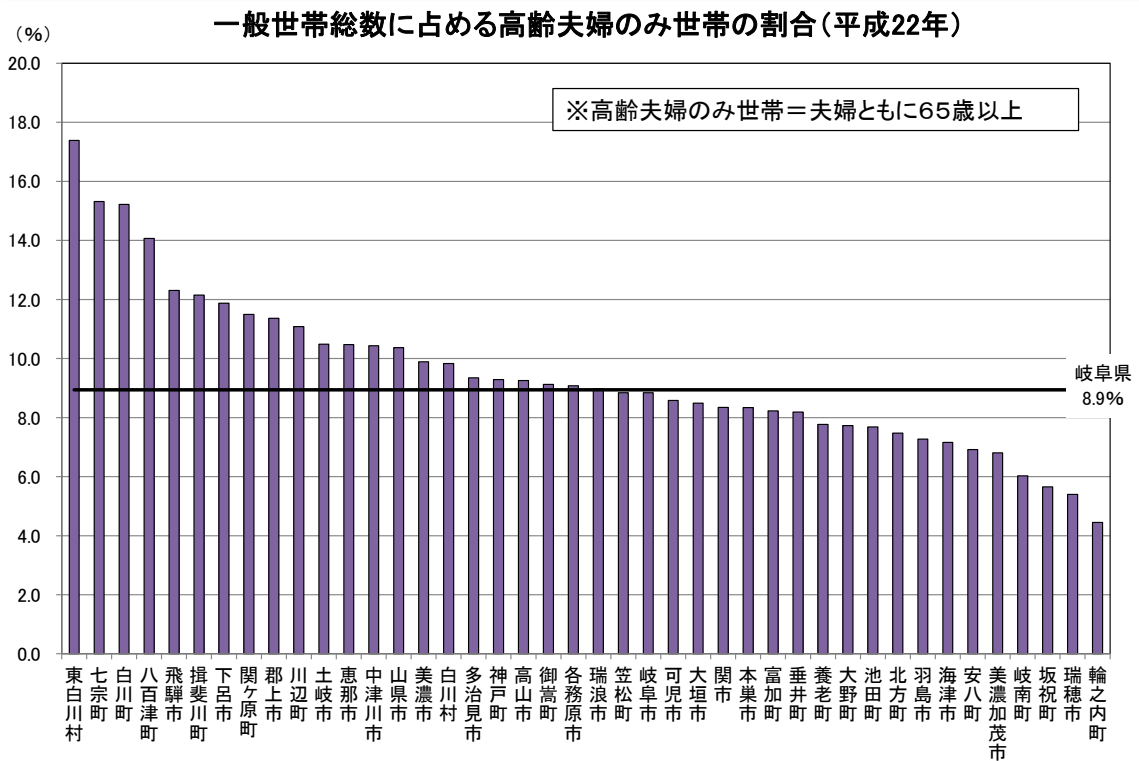
順位	増加数		増加率	
	市町村名	世帯	市町村名	%
1	岐阜市	3,181	輪之内町	55.4
2	各務原市	924	安八町	51.4
3	大垣市	866	瑞穂市	47.3
4	多治見市	654	可児市	46.4
5	高山市	589	神戸町	44.2

○高齢夫婦のみ世帯（夫婦ともに65歳以上）は41市町村で増加。

（地域によっては高齢夫婦のみ世帯が約2割）

高齢夫婦のみ世帯（6万5755世帯）は、41市町村で増加（1万2928世帯増）となっている。一般世帯に占める高齢夫婦のみ世帯の割合は東白川村が17.4%と最も高く、次いで七宗町（15.3%）、白川町（15.2%）などとなっている。一方、輪之内町が4.5%と最も低く、次いで瑞穂市（5.4%）、坂祝町（5.7%）などとなっている。

高齢単独世帯が多いところでは高齢の夫婦のみ世帯も多い傾向



高齢夫婦のみ世帯割合

順位	割合が高い		割合が低い	
	市町村名	%	市町村名	%
1	東白川村	17.4	輪之内町	4.5
2	七宗町	15.3	瑞穂市	5.4
3	白川町	15.2	坂祝町	5.7
4	八百津町	14.1	岐南町	6.0
5	飛騨市	12.3	美濃加茂市	6.8

高齢夫婦のみ世帯の増加が大きい市町村

順位	増加数		増加率	
	市町村名	世帯	市町村名	%
1	岐阜市	2,727	輪之内町	65.4
2	各務原市	1,377	安八町	64.6
3	可児市	941	岐南町	50.4
4	多治見市	870	瑞穂市	47.0
5	大垣市	845	可児市	46.1

※高齢夫婦のみ世帯・・・夫、妻ともに65歳以上の夫婦1組だけの世帯。

第4章 地域別の労働力状況

(1) 市町村別にみた労働力の状況

○労働力率は飛騨地域で高い。

(高齢者の労働力率は飛騨地域で高い)

5圏域別に労働力率(15歳以上人口に占める労働力人口)をみると、飛騨圏域が62.6%と最も高く、一方、東濃圏域が60.4%と最も低くなっている。労働力率は人口構造にも影響されるが、飛騨圏域は15~64歳でも81.3%、65歳以上でも26.6%と最も高くなっている。

市町村別に労働力率をみると、白川村が72.0%と最も高く、次いで岐南町が67.2%、坂祝町が65.3%などとなっている。一方、七宗町は51.8%と最も低く、次いで白川町が55.2%、八百津町が56.6%などとなっている。県の労働力率(61.7%)と比べると、18市町が県を上回っており、24市町村では県を下回っている。

労働力率が高い順

順位	15歳以上		15~64歳		65歳以上	
	圏域	(%)	市町村	(%)	市町村	(%)
1	飛騨圏域	62.6	飛騨圏域	81.3	飛騨圏域	26.6
2	岐阜圏域	62.2	中濃圏域	77.6	岐阜圏域	24.7
3	中濃圏域	61.8	東濃圏域	77.3	西濃圏域	21.7
4	西濃圏域	61.4	西濃圏域	76.4	中濃圏域	21.6
5	東濃圏域	60.4	岐阜圏域	75.5	東濃圏域	21.0
	岐阜県	61.7	岐阜県	76.8	岐阜県	23.1

労働力率が高い順

順位	15歳以上		15~64歳		65歳以上	
	市町村	(%)	市町村	(%)	市町村	(%)
1	白川村	72.0	白川村	88.1	白川村	41.3
2	岐南町	67.2	東白川村	85.8	東白川村	32.5
3	坂祝町	65.3	白川町	82.3	高山市	30.4
4	高山市	65.3	高山市	81.4	岐南町	28.2
5	輪之内町	65.2	飛騨市	81.1	富加町	26.7

労働力率が低い順

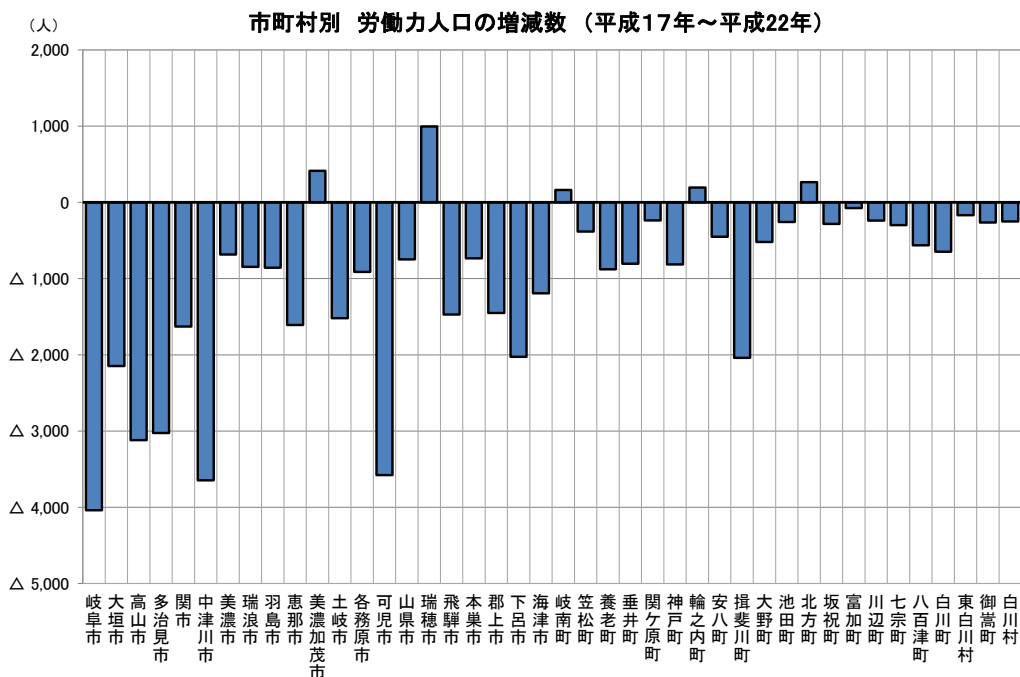
順位	15歳以上		15~64歳		65歳以上	
	市町村	(%)	市町村	(%)	市町村	(%)
1	七宗町	51.8	瑞穂市	74.0	七宗町	15.6
2	白川町	55.2	笠松町	74.3	瑞浪市	18.2
3	八百津町	56.6	岐阜市	75.1	垂井町	18.6
4	揖斐川町	57.3	多治見市	75.4	白川町	18.8
5	下呂市	57.9	本巣市	75.4	輪之内町	19.3

○労働力人口は、5市町で増加、37市町村で減少。

○労働力率は、2市町で上昇、40市町村で低下。

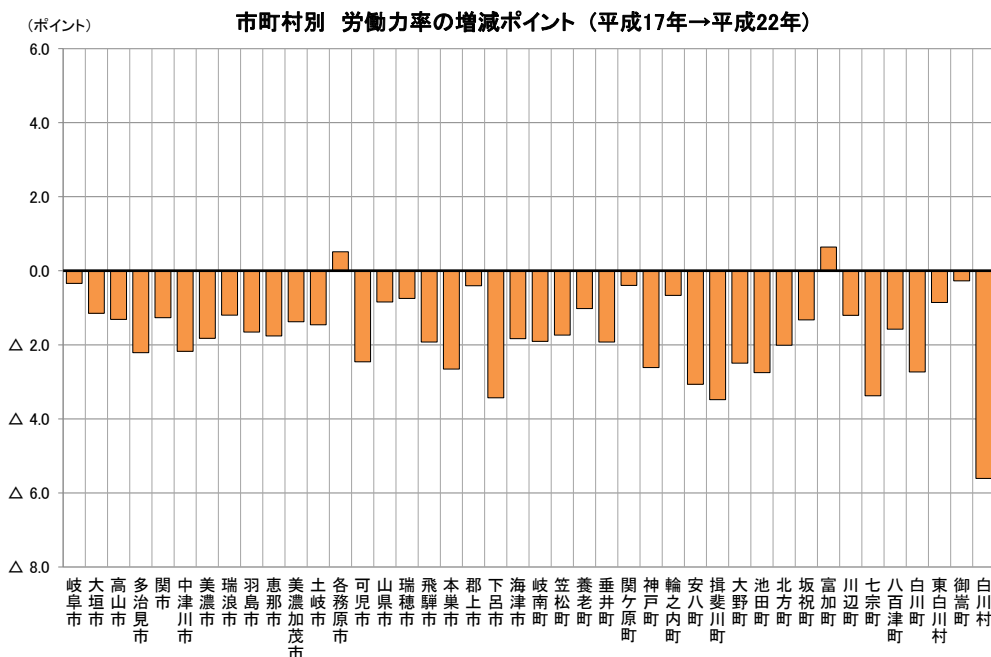
(労働力人口は37市町村で減少)

市町村別の労働力人口について、平成17年からの5年間の増減をみると、瑞穂市(+996人、+3.8%)、美濃加茂市(+414人、+1.4%)、北方町(+266人、+2.8%)などの5市町で増加となり、そのほかの37市町村では減少となっている。



(労働力率は40市町村で低下)

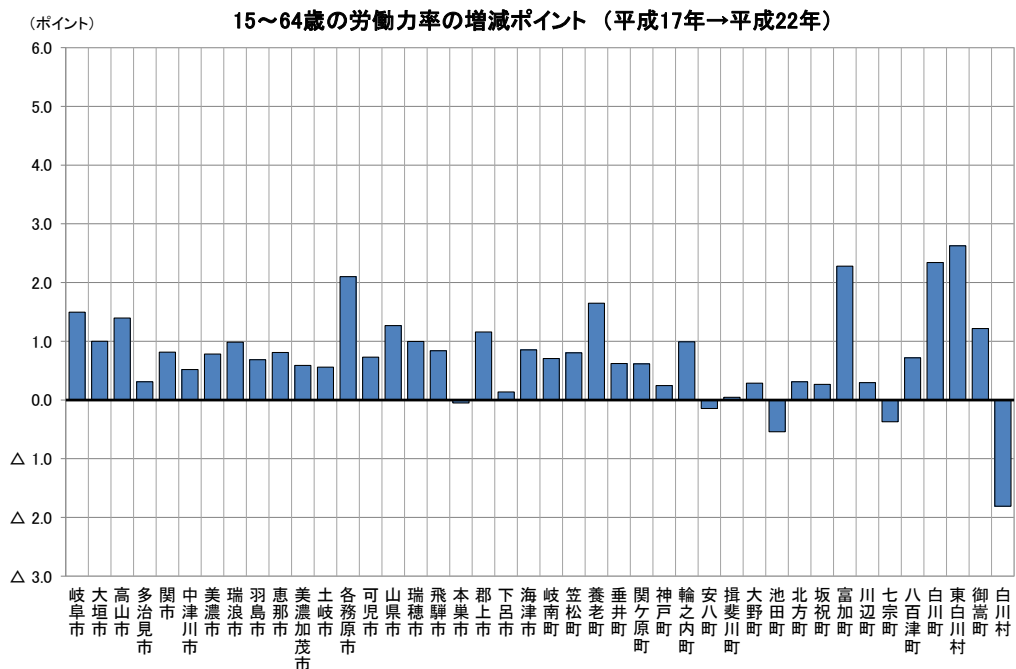
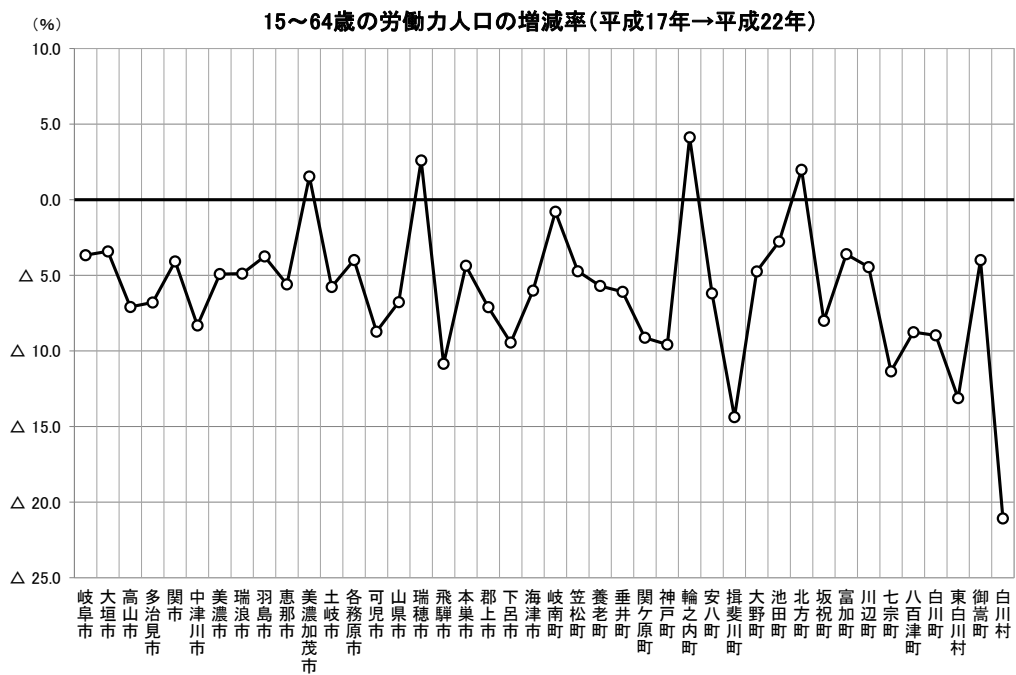
市町村別の労働力率(15歳以上人口に占める労働力人口)について、平成17年からの5年間の増減をみると、富加町(+0.6ポイント)、各務原市(+0.5ポイント)の2町で上昇となり、そのほかの40市町村では低下となっている。



- 15～64歳の労働力人口は、4市町で増加、38市町村で減少。
- 15～64歳の労働力率は、37市町村で上昇、5市町村で低下。

(現役世代の労働力人口はほとんどの地域で減少)

15～64歳の労働力人口について、平成17年からの5年間の増減をみると、瑞穂市(+641人、+2.6%)、美濃加茂市(+407人、+1.5%)、輪之内町(+199人、+4.1%)、北方町(+177人、+2.0%)の4市町で増加となっており、そのほかの38市町村では減少となっている。一方、労働力率についてみると、白川村(△1.8ポイント)、池田町(△0.5ポイント)、七宗町(△0.4ポイント)などの5市町村で低下となっているものの、37市町村では上昇となっており、現役世代では、労働力率が上昇しているものの、人口減少によって労働力人口が減少している地域が多くなっている。



○65歳以上の労働力人口は29市町で増加、13市町村で減少。

○65歳以上の労働力率は10市町で上昇、32市町村で低下。

(高齢者の労働力人口は、人口増加ほどは増えていない地域が多い)

65歳以上の労働力人口について、平成17年からの5年間の増減をみると、岐阜市(+3157人、+15.0%)、各務原市(+1913人、+36.7%)、多治見市(+850人、+18.6%)などの29市町で増加、13市町村で減少となっている。65歳以上人口をみると40市町村で増加、2町村で減少となっており、人口が増加しても労働力人口は増えていない地域がある。労働力率についてみると、関ヶ原町(+4.2ポイント)、各務原市(+3.7ポイント)、坂祝町(+2.9ポイント)など10市町で上昇となっているが、そのほか32市町村では低下となっている。

